

## 2021 年度事業報告

### 【1】 続く、新型コロナ感染症の影響の中で

以下の文章は昨年の活動報告に載せたものです。

『障害があっても街に出よう、多くの人と交流し、差別をなくしていこう、これが私たちの活動の原点です。コロナへの感染予防対策として言われていることは、私たちの思いとは真逆のものです。私たちの思い、積み重ねを否定するように感じます。

そして、感染した方への誹謗・中傷・差別は、障害のある人に向けられてきた差別と重なります。コロナの感染が異質のものを排除する考えを助長していないでしょうか。もはやだれが感染してもおかしくない状況。それにも関わらず、感染した人・感染者を出した団体が社会に謝るような状況は間違っていると思います。

感染防止は意識しながら、これからも私たちの思いを大切に障害のあるメンバーと共に歩んでいきたいと思っています。』

コロナの感染が続く状況ですが、パンとクッキーを作り、それを販売することで社会に行くというコッペの基本姿勢は崩さずに活動してきました。

### 【2】 新たな事業展開の模索

コッペは「共に働く場」として活動してきましたが、30 年の時を経て、働いている障害メンバーは年齢も上り、ゆったりと過ごせる場、親元から離れて生活できる場の確保も課題となっています。

今年度は実現には至りませんでした、以下の 2 点検討をしました。

#### ① 「日本財団 みらいの福祉施設建築プロジェクト 2021」への応募

麦の会の賛助会員でもある佐藤順子さんのご自宅を改修し、新たな就労継続支援 B 型事業所を開設するという内容で助成の申請をしました。佐藤順子さんは重度の障害がありながら、ずっと地域の中で生活してきました。築き上げてきた「つながり」はかなりのものです。自宅を「開放」してもっと多くの人が集まる場を作りたいという「夢」と、コッペの新たな事業展開を重ね合わせて応募しましたが、結果は不採択でした。

#### ② 宮城野区原町の渡辺さんから、4 階建ての 1F のスペースを有効利用できないかという相談がありました。

製造・販売をするには難しい場所であり、ヘルパー派遣事業所・相談支援等ができるないかという意見が出ました。知り合いに声掛けをしながら検討しましたが、実際に中心になってもらえる人が見つからず実現にはいたっていません。

#### \* トピックス ソーシャルプロダクト賞受賞

持続可能な社会の実現につながる優れた「ソーシャルプロダクト」を評価するソーシャルプロダクト・アワード 2022において、ソーシャルプロダクト賞を「コッペのフェアトレードクッキー」が受賞しました。

### 【3】 コッペの 2 階を賃借することにしました。

人が増えた分、現在のコッペは手狭になってきました。これもなんとかしたいという声がでていましたが、2022 年になって 2F の 202 号室が空いたのを機に、新たに賃借することにしました。契約は 2022 年 4 月 20 日の日付になります。活用方法は、事務所スペース、休憩スペース、資料・保存文書置き場、資材置き場となります。その空いた

スペースで、1Fの作業場を拡張します。

久しぶりの大きな事業となります。事業計画にて詳しく説明します。

### 【3】理事会

計9回行いました。今年度は新しく外部理事にも加わっていただき、収支状況・販売・行事予定・会員の状況・ショップについて、麦の穂の発行といった議題等について話し合いました。

コッペでは、みんなで運営を考えていこうとやってきました。法人格を得る前まで運営委員会を月1回開催していました。法人格を得た後は、運営委員会を引き継ぐものとして「理事会」を行っていますが、みんなで運営を考えていこうスタンスは変えません。都合がつく限り皆さんにも参加してもらいたいと思います。

### 【4】会員（2022年3／31現在）

正会員24名、賛助会員・寄付者127名（重複者除く）（昨年度より1名増）

2018年2月1日を持って認定NPO法人として認められました。「認定」になったことを強みに会員・寄付者の増加を試みてきました。ホームページ上に寄付欄を設けることも検討しましたが、経費の面から実現していません。

認定NPO法人として継続するためには、年3,000円以上の賛助会員・寄付者が平均で100名以上いることが最低の条件です。安定して認定の条件をクリアするためには引き続き寄付者・賛助会員の増加が必要です。情報発信に努めながら賛助会員・寄付者の拡大を図りたいところです。ご協力を引き続きお願いします。

なお、認定の有効期間は2023年1月31日まで。更新申請は、2022年の総会が終わってから行うことになります。認定を受けて最初の更新になります。

### 【5】社会教育の推進

#### ①会報「麦の穂」の発行 計4回 2021年6月・9月・12月・2021年3月

今年度は予定通り4回発行（300部前後）できました。内容も充実していたと思います。賛助会員の確保のためにも会報は大切です。しっかり定期的に発行したいと思います。随時原稿を募集します。

#### ②ボランティアの受け入れ

区役所販売・DNP販売・ショップ等には、ボランティアの方にお世話になっています。ボランティア保険に加入し活動中のケガ等に備えています。

2020年度はコロナの影響で中止になった高校生の夏ボラ体験は、2021年度は開催され5名の高校生の受け入れを行いました。

### 【6】就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

#### ①開設状況

開設日数は、254日／年、利用者延べ数は、3,715人（昨年261日／年、利用者延べ数は、3,829人）となっています。コッペの定員としては、20名。当初在籍は18名、11月より19名となりました。一日当たりの平均利用者数は、14.7人（昨年14.7人）となります。延べ数、平均数とも昨年を下回っています。

それを支えるスタッフは、常勤5名、パート4名です。それに区役所販売等を手伝っていただけるボランティア方々等に、協力して頂きました。多くのメンバーにも外へ出てもらおうと、配達・販売にもこれまで行っていなかったメンバーも参加してもらい

ました。土日のイベント販売時には障害メンバーも参加してもらえるとありがたいです。

## ② 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約 2,500 万／年（仕入れ販売分 270 万含む）、月平均 209 万となっています。2020 年度の売り上げからは約 340 万上がりました。2020 年度はコロナの影響で売り上げは落ち込みましたが、2021 年度はその影響はまだありつつも順調に売り上げが伸びました。新規取引先、福の市の開催、多団体とのコラボ商品の開発等が要因となっています。B-NET サポーター会員も増えています。消費税が 10% に上がった分の仕入れ経費も押さえられています。

## ③ 訓練等給付費収入

2021 年度は 3,206 万ほどとなりました。前年度より約 140 万上がりました。処遇改善加算が増額されたことによるものです。

## ④ 工賃

障害メンバーの給料は、2020 年度の売り上げの減少を受け 3 割減で支給しました。そのため平均工賃は 35,356 円となり、2020 年度 36,113 円よりやや減少しました。  
(2019 年度、平均約 51,124 円)

コッペの目的とする共に働くことの具体的な現われが工賃の金額です。その目標が達成できないのでは、コッペをやっていくこと自体の意味がありません。

必要経費も増えている中、再度工賃アップに向け、売り上げの増加が必要です。

## ⑤ 収支状況

収支としては、約 200 万の黒字となりました。

## ⑥ レクレーション・研修

当初日帰りのレクレーションを開催できたらと考えましたが、感染状況もあり中止としました。その代わりとして、岩沼にできた「JOKA東北」の見学会を行いました。  
・いちえさん食事会招待 7 月 4 日(日)・2020 年 1 月 30 日(日)

## 【7】NPO 法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会ですが、障害者総合支援法上は、NPO 法人フルハウスが運営する形になっており、訓練等給付費もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっています。給付費の請求事務は、もとになるデータはコッペで作成し、国保連への請求はソレイユから行っています。それに対して月 1 万円の事務手数料をソレイユに支払いしています。

引き続き情報交換をしながら連携していくたいと思います。

## 【8】NPO 法人共同連並びに東北ブロックについて

NPO 法人共同連は、コッペの立ち上げからお世話になってきました。全国の共に働く事業所の団体です。ZOOMでの会議の他は、東北ブロックの活動も含め、十分な活動はできませんでした。それでも 2022 年 1 月には名古屋で全国研修会を行いました。

今後対面での活動も再開していく予定です。